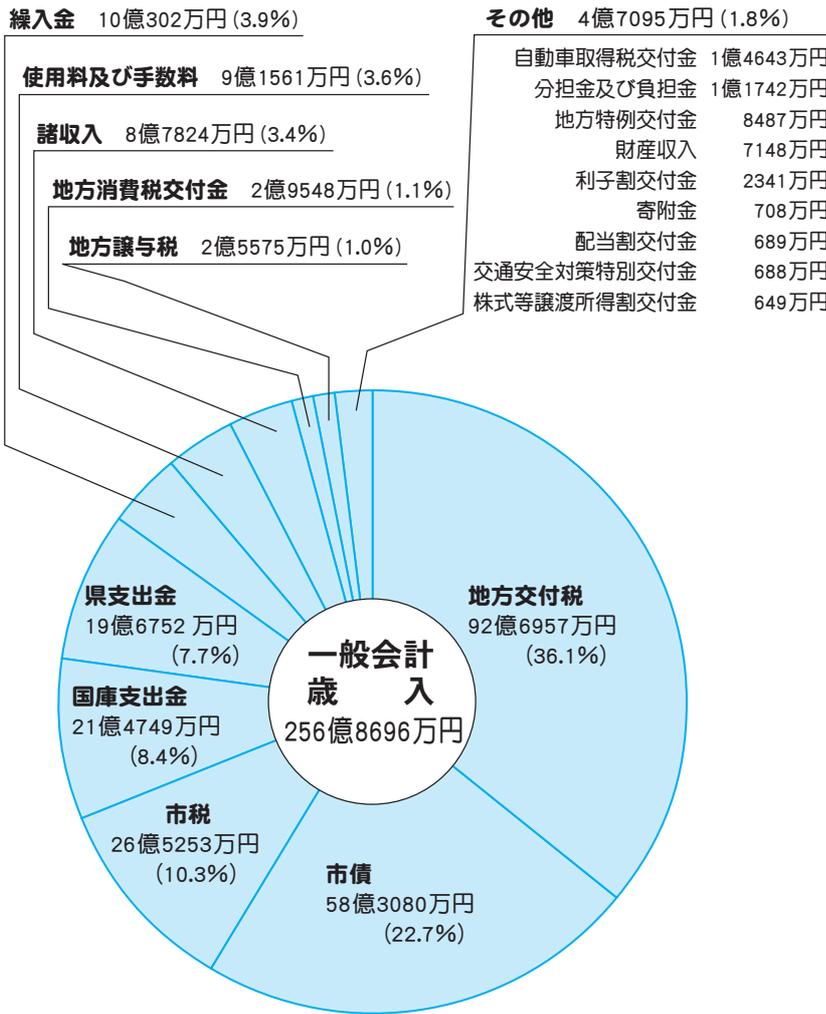


平成16年度 決算報告

新市の基礎固め・災害復旧など進める

養父市議会9月定例会で平成16年度各会計の決算が認定されました。市の会計は一般会計と11特別会計、3企業会計で構成されています。市では、これらの予算を適正かつ効率的に執行し、安全で暮らしやすい「まち」をめざして市政を進めました。今月号の広報では、平成16年度決算の概要についてお知らせします。



一般会計

平成16年4月1日、平成の大合併では兵庫県下で第1号として新生・養父市が誕生しました。

平成16年度は、養父市の初年度として「響き合う心 拓く明日 但馬中央の郷」をめざし、養父市の基礎固めを進めるために市政を推進してきました。

しかし、10月には台風23号によって市内は甚大な被害を受け、その復興に取り組む中、佐々木憲二・初代養父市長が急逝するなど思いもかけない試練のスタートとなりましたが、台風災害からの復興を最優先に、さまざまな行政課題の解決に取り組みました。一般会計の決算額は、歳入が256億8696万円、歳出が244億3681万円で、差し引き13億2015万円の黒字となりました。このうち、4億円を財政調整基金(貯金)に積み立て、翌年度への繰越財源を除いた3億9517万円を翌年度に繰り越しました。

歳入 36%を占める 地方交付税

市に1年間に入るお金が歳入です。

歳入で最も高い割合を占めるのは、92億6957万円で全体の36.1%を占めている地方交付税です。これは、市の財政力に比べて国から交付されるものです。

次に割合が高いのが、58億3080万円で全体の22.7%を占める市債です。これは、建設事業など大きな事業に着手するときに借りるお金をいいます。なお、平成16年度末の一般会計における市債残高(借金残高)は329億1213万円(次ページ表1参照)で、市民一人あたりに換算すると約111万円を借りていることとなります。

みなさんから納めていただいた市民税、固定資産税などの税金(市税)は、26億5253万円で全体の約1割を占めます。市民一人あたりに換算すると、約9万円を納めていただいたこととなります。